

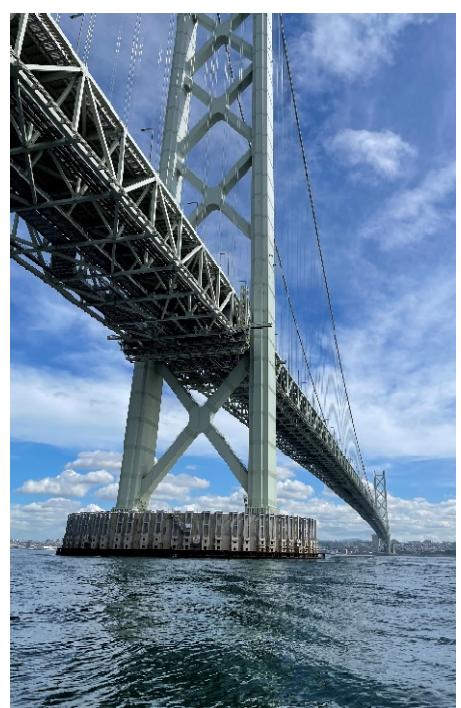
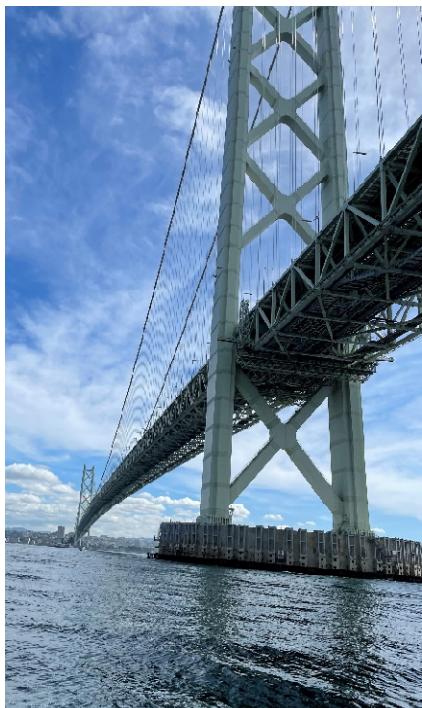


特定非営利活動法人**兵庫県技術士会**

Hyogo Professional Engineers Association

技術士・ひょうご No. 111

February 2024



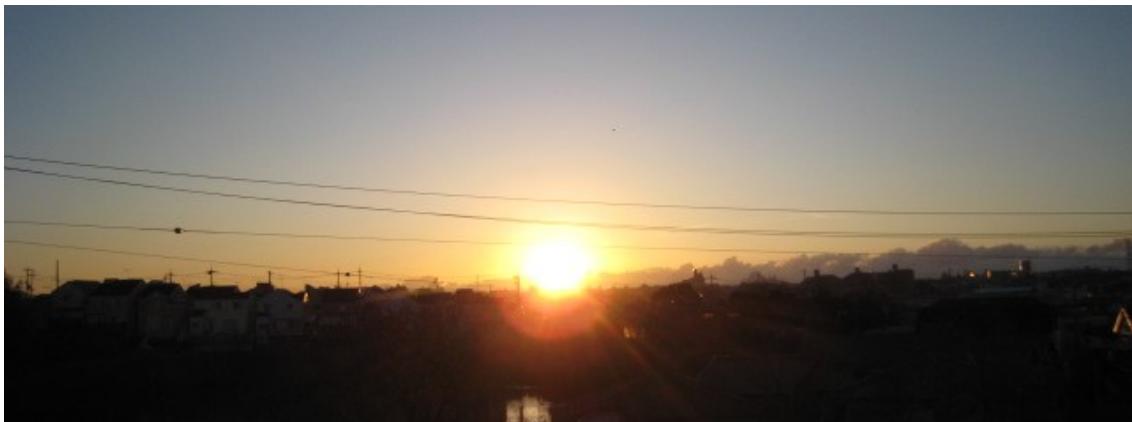
潮流に乗って東西に移動する鯛が見ている明石海峡大橋

上の写真は、完成当時支間長世界一であった明石海峡大橋の下をくぐり抜ける時に楽しめる、鳥瞰写真ならぬ魚瞰写真です。遠目に映える美しい景観とは異なった、巨大な構造物が目に入ります。

そのうちの一つは、二つの主塔基礎です。直径 80m、高さ 70m の巨大なコンクリート構造物で、水深 60m の強固な地盤の上に設置されています。1995 年 1 月 17 日に、基礎が設置され両主塔が立ち上がった状態で、マグニチュード 7.3 の兵庫県南部地震に見舞われましたが、地盤の移動により発生した位置の変化以外、基礎本体には全く異常は認められず、未製作であった、補剛桁上床板の長さを調整して橋は完成されました。

もう一つは、補剛桁です。吊り橋で自動車が走行する道路面を載せるだけの吊り橋の補剛桁としては相応しくなく、保守作業用通路としても、やけに背が高く大袈裟なトラス鉄骨構造です。これは当初の計画段階で想定されていた大阪～淡路～四国～大分を結ぶ四国新幹線の開通を想定して、姉妹橋の鳴門大橋とともに計画された道路・鉄道併用橋の名残です。当時計画されていた本州四国連絡橋 3 ルートのうちで、併用橋が実現したのは、児島～坂出ルートのみで、本大橋では政治的、技術的、経済的理由により断念され、道路専用橋となりました。

二つとも明石海峡大橋建設の歴史を物語る構造物です。 谷口 耕造（写真）、吉田 駿司（文）



冬至の日の出（新居哲会員提供）

編集後記

会員諸氏から興味深い記事を投稿いただき、本 111 号も充実した内容にすることができました。自画自賛とともに、皆様に感謝申し上げます。ただ、本号計画段階に、メール及び例会で投稿をお願いしましたが、新しい方からの投稿が殆どないことが気にかかります。本機関紙「技術士ひょうご」は皆様の投稿にて、成り立っております。技術論に限らず、随想、歴史雑感などテーマは問いません。多くの会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

技術士・ひょうご編集委員会

編集委員長 吉田 駿司

編集委員 杉岡 良吉 谷口 耕造

畠 啓之 福井 英雄

今後も編集員一同、会員の皆様が書いて、読まれる紙面つくりに努めて参ります。

* 編集委員募集中 *

令和 6 年 2 月 3 日

特定非営利活動法人 兵庫県技術士会

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1 丁目 8 番 4 号

神戸市産業振興センター 5 階

TEL : 078-360-3320

FAX : 078-599-7545

E-mail : kobeinfo@hpea-npo.com

URL : <https://www.hpea-npo.com>

阪神分室

〒662-0854 西宮市櫨塚町 2-20 西宮商工会議所内

本誌記事の無断転載を禁止します